

3. 潜在したものは顕在化する機会を待っている

自然災害には多くのものがありますが、共通して感じることは弱いところを選んで被害を洗い出してくれるという印象を受けます。また、見えなかったものを見せてくれたというものもあります。土砂災害では脆弱なところ、集水地形が背後に存在していたこと、地盤災害では液状化や陥没といった目に見えていなかったものが明確に災害で見せられたりもします。また、普段は感じていなかった森林環境の健全度が明確に災害で露呈して流木災害や土石流災害として示されたりすることもあります。また、災害があってはじめてその理由がわかることもあります。

例えば、かつての土石流によって形成された扇状地を開発していて、その背後の沢から土石流が再発した事例もあります。また、造成地での谷埋め盛土が液状化ですべりを起したということが珍しくなくなってきました。このような事例を見ると、災害にはそれなりの理由があって、隠れていた災害の要素がさまざまな外力で明らかにされたのだと思ってしまう。

わが国が災害列島といわれるのは、先ず地形地質の形成が新しく脆弱で浸食されやすいことや、平野部が少なく人口が平野、沿岸部に集中していることがあります。そして住宅用の平地の不足分は近郊の丘陵地を造成して獲得しています。いわば利便性や快適性優先で、何時来るかわからないような自然災害を考慮しては、暮らしが成り立たないという事情があるのは確かです。自然災害が来ないうちは問題がないのですが、巨大地震や豪雨災害があると大きな被害に発展することは必定な環境にあるということは認識すべきです。もちろん、国土強靱化というような政策を立ち上げてはいるものの、自然に抗するにはまったく不足している状況で、国民の防災意識の転換が求められています。それこそ経済と災害との共存こそが求められているのだと思います。

この列島に安全、安心して暮らすには投資と住み方を考え直すべきことが、次世代の未来にも関係しているわけで、先延ばしは許されないことです。そのためにも、これまでの科学的知見や災害経験から、災害リスクを透視しての対応をすべきだと思います。災害発生には明確な素因的なものと誘因が存在すること、災害を大きくしているのは社会のあり方も関係していること、潜在化している災害リスクを明確にした上で、暮らし方を考えていくべきです。

潜在化しているリスクを明らかにするということは、土地のゾーニングにもつながることになり、発想の転換に基づく構想をしていく必要があります。危険なところに

は暮らさない、暮らすのであればそれに応じた負担をするという理念のもとに、国土のゾーニングを進めていくことを政策として着実に推し進めるべきで、同時に国民の関心度がそれを支持することが核心でもあります。